

経営比較分析表（平成29年度決算）

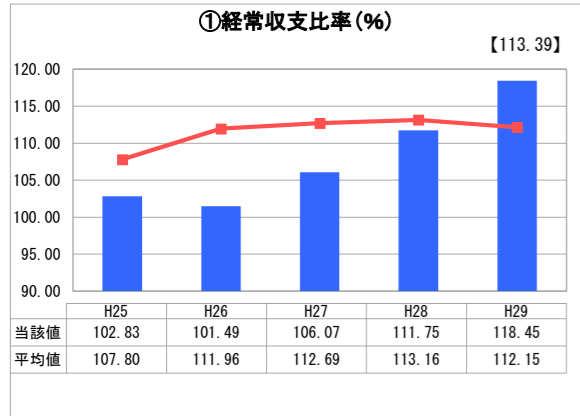
兵庫県 三木市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	95.66	99.83	2,592	

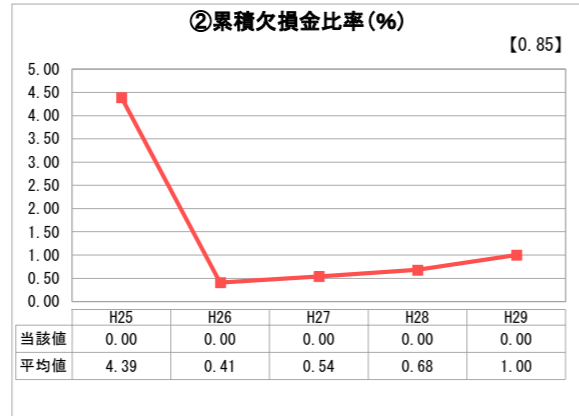
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
78,414	176.51	444.25
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
77,965	139.70	558.09

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成29年度全国平均

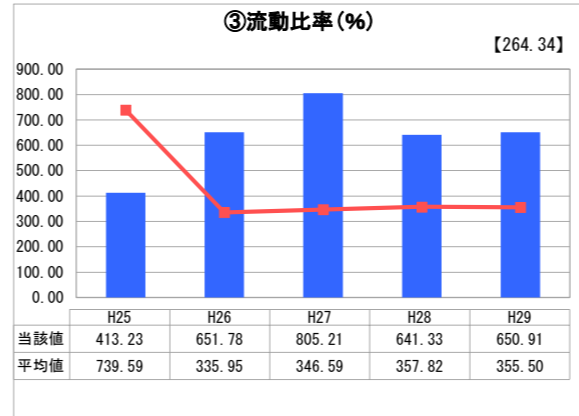
1. 経営の健全性・効率性



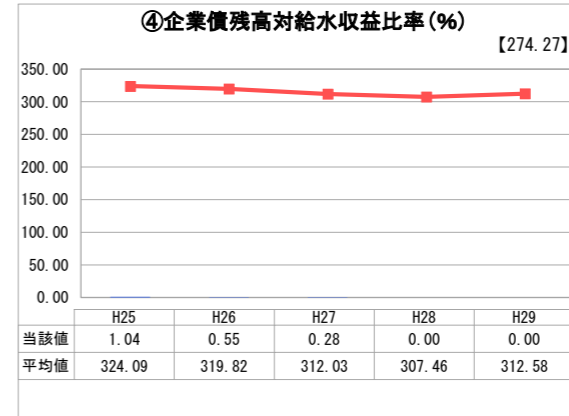
「経常損益」



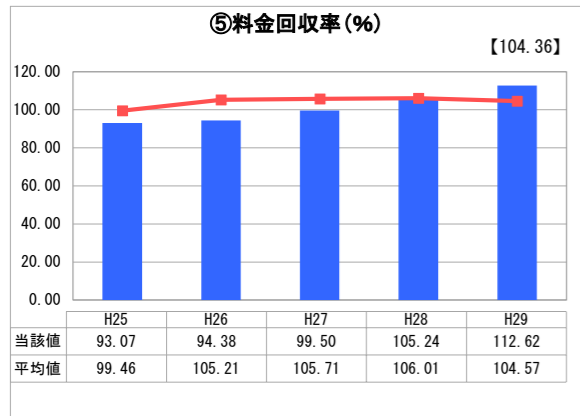
「累積欠損」



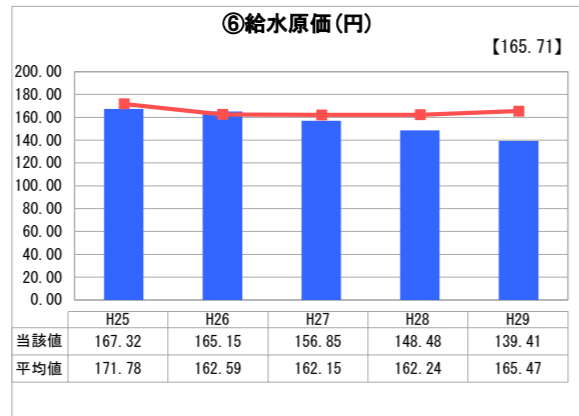
「支払能力」



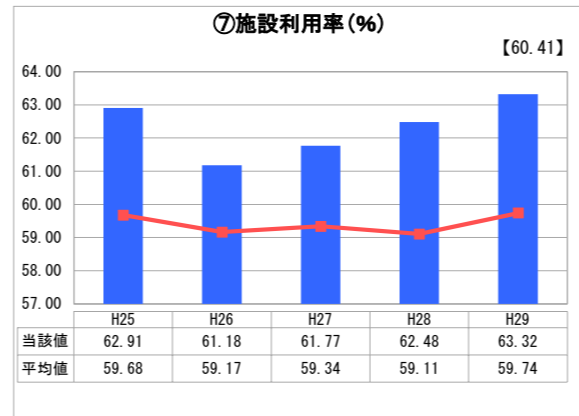
「債務残高」



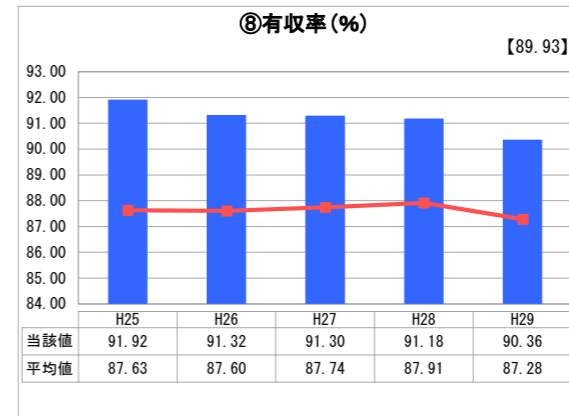
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

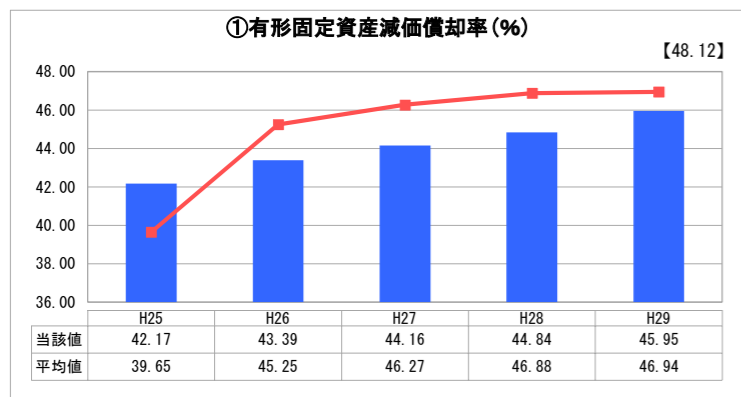


「施設の効率性」

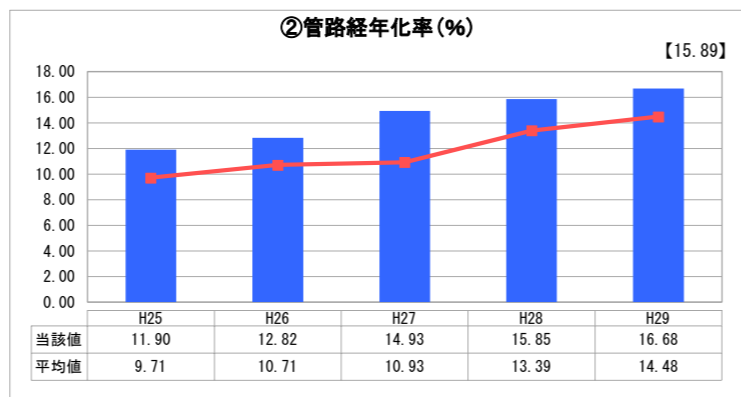


「供給した配水量の効率性」

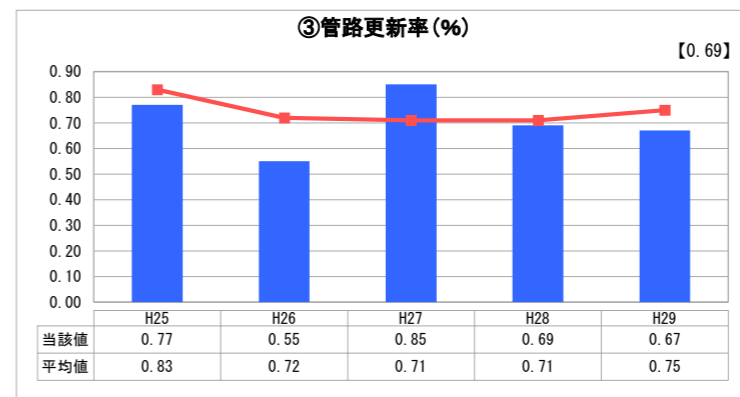
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- 「経常収支比率」が常に100%を超え、安価な料金設定のもとでも「料金回収率」が100%を上回っている。
- 「累積欠損金」の発生しない黒字経営を継続している。
- 「流動比率」は平均を大きく上回り、依然として高い流動性を保っている。
- 平成28年度に企業債の償還が終了し、借入金に依存しない経営を進めている。
- 以上のことから、財務状況及び収支状況ともに健全経営を確保し、効率的な経営を行っている。

2. 老朽化の状況について

- 阪神淡路大震災の経験を踏まえ、水道耐震化の優先順位を「緊急時に水を貯留する」ことを最優先とし、配水池の耐震化を先行して進めてきたことから、主要配水池の耐震化は100%完了した。
- 近年、経年化により漏水が多発している塩ビ管路の更新・耐震化を優先的に進めている。
- 布設総延長の1%にあたる6kmと新設延長1kmの計7kmを年間更新目標としている。

全体総括

- 平成28年度に、中長期的な経営の基本計画となる「経営戦略」を策定している。
- 今後とも健全経営を維持し、管路の更新・耐震化を計画的に推進していく。
- 人口減少や需要量減少などが想定される中、給水サービスの向上を図り、より安全で安定した水道水の供給に努め、市民から信頼される水道事業を目指す。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。